

市政一般質問発言通告書（会派代表・**個人**）

令和 7 年 8 月 22 日

多治見市議会



会派名 新生自民

3 番議員 氏名 葉狩 拓也

質問題名	中京学院大学の移転に伴う学生数確保に関する市の支援と対応について
質問要旨	令和 9 年 4 月に中京学院大学の多治見市笠原町にキャンパス移転が迫っています。これは教育環境の刷新と学生数の回復を目的とした重要な施策であり、市としても地域活性化の契機として期待されるところです。しかしながら、近年の入学者数は減少傾向にあり、令和 2 年度には約 350 名だった入学者が令和 7 年度には約 150 名まで減少しています。加えて、全国的な 18 歳人口の減少、交通アクセスの課題、愛知県を中心とした近隣私学との競合など、学生数の確保には多くの構造的な障壁が存在します。大学移転が単なる施設整備にとどまらず、受験者数・入学者数の増加につながるよう、市としても広報支援、交通利便性の向上、学生用住宅の整備など多方面からの支援が求められます。本質問では、令和 9 年の移転を見据え、学生数確保に向けた市の具体的な対応と今後の戦略について伺います。
質問項目①	受験者数増加の見通しと市の検証姿勢 ①市として大学側が見込む入学者数の増加についてどのように把握しているか。また、その根拠や見通しをどのように検証しているのか。 ②エリア別の戦略や、予想はどのようなか。また愛知県からの流入や通学圏拡大の可能性について、具体的なデータや分析はあるか。 ③今年度から大学移転後も志願者数・入学者数の推移を市として継続的に把握し、支援施策の見直しに活かす仕組みはあるか。
質問項目②	広報・進路支援による入学者数確保 ①市として岐阜県内や愛知県の高校に対して、進路説明会への支援や広報活動を行う予定はあるか。また、大学と連携して大学説明会やオープンキャンパス等に参加していくのは可能か。 ②大学の特色ある教育内容や地域連携活動を市として発信する取り組みは可能か。 ③大学と連携した市独自の広報施策（動画・SNS・市報など）の展開につ

	いて、具体的な計画はあるか。
質問項目③	学生の交通利便性の確保 ① 笠原町は多治見駅から距離があり、通学にはバスや自家用車を利用する必要がある。市として移転後の学生の通学利便性を確保するために、バス路線の増便や運行時間の調整、またはシャトルバスの新設などを検討しているか。 ② 通学にかかる交通費負担の軽減や、学生向け定期券制度の充実について市として支援の可能性はあるか。 ③ 移転に向けた交通施策の検討・実施スケジュールについて、現時点での計画や目安はあるか。
質問項目④	学生住宅の整備と市の支援 ① 移転後の学生住宅の確保は入学者数や若者定着に直結する。移転後に想定される学生数に対して、住宅需要がどの程度見込まれるか、市としての予測はあるか。住宅供給エリアについても、笠原町内に限らず多治見駅周辺や他地域との分散配置の可能性を含めて検討しているか。 ② 市として、住宅供給体制の整備や家賃補助制度の検討などを行う予定はあるか。 ③ 空き家・空室の活用や、地域住民との協働による住環境整備について、市として具体的な取り組みは可能か。
質問の相手方	市長・企画部長・都市計画部長